

平成28年度 英語教育推進委員会研究報告

(1) 研究テーマ

小学校外国語活動と中学校外国語科の円滑な接続に向けて

(2) 研究の具体

小・中でつながりのある単元や学習活動についての研究を行い、推進委員による授業映像を市内全小・中学校へ提供することで、今後の外国語指導に役立てる。

① 小・中の学びをつなぐ授業

事例1 国の名前

学年	単元とねらい	単元で行う主な学習活動	主に使用されている単語や英文
国分寺小 3年生 飯野先生	国の名前 ・国旗の色や形のヒントを出して国名を当てよう。	・色や形の言い方を学習する学習する。 ・国の名前や国旗、その国の特徴を学習する。 ・3ヒントクイズをする。	・ Japan / America/ Canada ・ red / white ・ circle / square ・ Hint please.
祇園小 6年生 田村先生	行きたい国 ・グループで行きたい国の紹介をしよう。	・グループで行きたい国についての魅力を探す。 ・パワーポイントを作成し、発表のしかたや英文の練習をする。 ・クラスで発表をする。	・ I want to go to . ・ I want to ~. ・ I can ~. ・ Let's go to ~.
国分寺中 2年生 酒井先生	行きたい国とその理由 ・自分の行ってみたい国について、理由も入れて自分の考えを書こう。	・行きたい国とその理由を考える。 ・英文を作成する。 ・クラスで発表をする。	・ I want to go to~because ~.
南河内中 3年生 渡邊先生	国の紹介 ・関係代名詞を用いた英文を使って3ヒントクイズを作ろう。	・関係代名詞を使い、様々な国の特徴を表現する方法について理解する。 ・グループで協力して3ヒントクイズを作成する。 ・グループ対抗のクイズ大会をする。	・ This is the country that has ~.

事例2 What time ・教科

学年	単元とねらい	単元で行う主な学習活動	主に使用されている単語や英文
吉田西小 5年生 熊田先生	夢の時間割 ・夢の時間割をつくり 友達と紹介し合おう。	・時間割についての表現や尋ね方を知る。 ・好きな教科とその理由を伝え合う。 ・「夢の時間割」について紹介したり聞き取ったりする。	教科の名前 I like(教科). I study(教科)on(曜日).
古山小 6年生 澤田先生	一日の生活 ・学校生活や時間割について友達と紹介し合おう。	・生活習慣を表す基本的な英語表現の仕方を知る。 ・時刻を尋ねたり、答えたりする言い方を知り、問答し合う。 ・時間割表を見ながら、何曜日の何時に何の教科を学習するのかを問答し合う。	What time do you study ~ on ~ ? I study ~ at ~ on ~ . Japanese/math/science ・ ・
南河内二中 1年生 亀井先生	私の一日 ・友達とお互いの生活習慣について情報交換をしよう。	・(時間を聞く) 疑問文とその答え方について理解する。 ・互いの生活習慣について問答し合う。	What time do you usually ~ ? 副詞を含んだ英文

事例3 Can

学年	単元とねらい	単元で行う主な学習活動	主に使用されている単語や英文
祇園小 6年生 田村先生	行きたい国 ・グループで行きたい国の紹介をしよう。	・グループで行きたい国についての魅力を探す。 ・パワーポイントを作成し、発表の仕方や英文を練習する。 ・クラスで発表をする。	・ I want to go to . ・ I want to ~. ・ I can ~. ・ Let's go to ~.
石橋中 1年生 和田先生	私のできること ・インタビューの質問内容を考えよう。	・ Can you ~? を使って友達とできることについて問答し合う。 ・ Can を含んだ英文を用いて様々な職場の面接で質問する内容を考える。	(I / He / She / They) can ~. Can you ~ ?

◇小・中のつながりについて確認できたこと

- ・既習事項を把握して授業を行うことで、無理や無駄のない指導を行うことができる。例えば、小学校では一人称・二人称を使った文章を学習するが、中学校では三人称を使った表現に広がることに注意して授業を行うことができる。
- ・インプットからアウトプットへ、また「気付く・分かる」から「伝える」ことを意識した指導を段階的に行うことの大切さについて確認することができた。小学校では、多くの単語や表現に触れることが、中学校でのアウトプットにつながる。
- ・小学校でグループ活動を通して学んだことが、中学校で生かされている。グループ活動における約束事なども、小・中を通して継続的に指導することで、自然に意識付けされるのではないか。
- ・英語の授業の流れは、小・中で共通していることが多い。知らない単語を一方的に教え込むのではなく、考えさせる、想像させるといった導入の仕方は、共通した指導方法である。
- ・小・中ともに、児童生徒の興味・関心を高める教材づくりの大切さが確認できた。視覚情報を活用したり、身近な話題をもとにした教材を使ったりすることによって、聞きたい・知りたい・伝えたいという好奇心を高めることができる。デジタル教材も併せて、目的に応じて効果的に活用したい。
- ・学習内容のつながりだけでなく、学習方法のつながりについても確認することができた。今後、中学校区における指導方法の系統について、更に研究を深めていく必要がある。

② 小中交流授業（国分寺小学校区 国分寺中学校・国分寺小学校）

- 日時 平成28年12月16日（金）
- 場所 下野市立国分寺小学校
- クラス 国分寺小6年3組、国分寺中1年2組
- 授業者 国分寺小 大塚雅人先生、国分寺中 加藤修司先生、Joe 先生（ALT）
- 授業研究会・研修会
授業研究会「小・中学校の学びのつながり」～学習意欲と学習内容をつなぐ～
研修会「小・中学校における学習到達目標について考える」
- 授業について

中心となる活動

「人物やキャラクターの特徴についてグループで紹介する」

<評価>

- （小学生）グループのメンバーと協力しながら、英語で発表しようとしている。
- （中学生）グループで考えたヒントを英語で表現しようとしている。
相手に伝わる声の大きさを、英語で発表することができる。



<授業の流れ①～③>

- ① 隣の人と挨拶を交わした後、Frenzy Game(同じカードをもっている人を探す)を行いました。
- ② 小・中学生2人ずつの4人グループで、紹介する人物やキャラクターについて4つのヒントを考えました。
(例：ジバニャン・ピコ太郎・名探偵コナン)



中学生がリーダーシップをとってヒント作りを進めました。小学生も積極的にアイデアを出し、協力して発表の準備を行いました。英単語をスラスラと書いている中学生を見て、小学生は「来年は自分もこんな頼もしい中学生になれるのかな・・・」と思ったことでしょう。

- ③ クイズ大会を行いました。小学生も大きな声で堂々と発表していました。

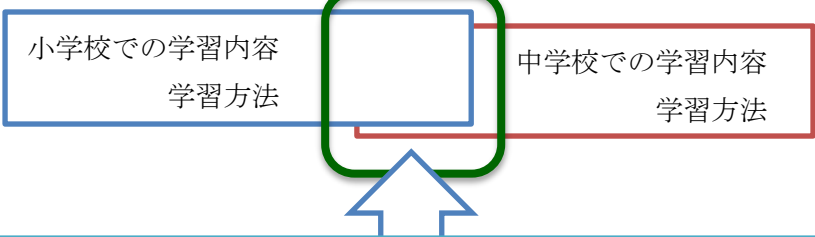


クイズ例 He is Japanese. He is short.
 He has glasses He is a child.



「小学生ならではの発想や視点がクイズ作成に活かされた」「中学生は上級生としての責任感をもって活動に取り組み、班員全員が活躍できるような気配りも感じられた」など、参加者の先生方にとっても、子どもたちの姿を通して学ぶことが多くありました。
今後も、子ども同士、教員同士がつながる機会を作り、学びと成長をつなげる一貫教育を進めていきましょう。

(3) 今後の小中一貫教育へ向けて



学習内容と**学習方法**の視点で、小・中でのつながりを、再度確認しましょう。

- ・小学校で学んだ内容を中学校で学習することになる単語や英文を見直し、中学校での指導法を工夫しましょう。
- ・小・中の指導方法の相違点は何か、なぜ同じ(違う)必要があるのかを、小・中の学習のねらいとの関連から考え、中学校区や市全体での共通理解を進めていきましょう。